

NEWS RELEASE

令和 2年 11月 11日

お客様へ

株式会社 栃木銀行
株式会社 日本政策金融公庫
宇都宮支店

小山市でのいちご直接販売に向けた出資・融資支援 ～6次産業化農家への出資・融資で連携支援～

株式会社栃木銀行（取締役頭取 黒本 淳之介）及び株式会社日本政策金融公庫（略称：日本公庫）宇都宮支店農林水産事業は、株式会社篠原ファーム（代表取締役 篠原 和貴）に対し、いちごの生産および販売に必要な設備資金を協調して出資<とちぎん農業法人2号ファンド第1号出資>及び融資しましたのでお知らせ致します。【出資・融資概要は後掲】

<ポイント>

○6次産業先を支援

当社は小山市で42a規模のハウスで「とちおとめ」や「スカイベリー」等、いちごの生産を主業とする農業法人であり、平成25年10月に法人設立し個人経営から法人経営へ移行しました。代表者である篠原和貴氏は三代目であり、「先祖代々受け継がれてきたいちご生産農家としての技術や知識を絶やしてはいけない」との思いから就農を決意されました。

また、当社はいちご生産のみならず、自社で生産したいちごを活用したケーキやジェラートを販売するため、六次産業化・地産地消法に基づき、平成26年5月に総合化事業計画の認定を取得し、洋菓子店「ChezFraise（シェフ）」を平成28年にオープンしました。同店は東京都内でパティシエとして勤務していた和貴氏の姉である由佳氏を店長として起用し、限られた資材・人材を最大限に活用した経営を展開している点も当社の特徴といえます。

その中で、和貴氏は「自社のいちごをもっと幅広く、色んなお客様にも食べて頂きたい」との思いから、今後100a規模までの規模拡大を目標に掲げ、今回はその一環として、とちぎん農業法人2号ファンド及び日本政策金融公庫のスーパーL資金を活用し、いちごハウスおよび直売所兼加工場を整備いたしました。

○農業分野で栃木銀行と日本公庫が連携

栃木銀行と日本公庫は計画段階から連携して経営相談に応じるなど、事業の実施にあたりサポートしてまいりました。今後の当社の事業計画や地域活性化の観点から評価し、いちごハウスおよび直売所兼加工場に必要資金として、(株)とちぎんキャピタル&コンサルティングによる出資10百万円、日本公庫による融資35百万円、計45百万円を協調支援いたしました。

地域密着型金融の推進を図る栃木銀行の地域ネットワークや、日本公庫の専門性を活かした支援を行う等、今後もそれぞれの強みを活かして、担い手の育成や経営サポートを積極的に支援してまいります。

NEWS RELEASE

○ 出資・融資の概要

名 称	株式会社 篠原ファーム（代表取締役 篠原 和貴）
資 本 金	3 百万円
所 在 地	栃木県小山市大字小菓 3 5 4
設 立	平成 2 5 年 1 0 月
事業内容	いちご生産・販売、洋菓子販売等
資金使途	いちご生産ハウス及び直売所兼加工場
支援金額	株式会社とちぎんキャピタル&コンサルティング 出資 10 百万円 株式会社日本政策金融公庫 融資 35 百万円